

# 大阪作業療法 ジャーナル

Journal of the Osaka  
Occupational Therapy Association : JOOTA

## 特集 作業療法と訪問リハビリテーション

<b>巻頭言</b>	.....	藤原 太郎	1
<b>特集</b>	対象者から地域全体へアプローチする訪問の作業療法	鎌田 亮平	2
	小児の訪問リハビリテーション 家族に寄り添う支援	須郷 尋美	8
	精神科訪問看護ステーションにおける 精神障害者と自閉スペクトラム児童への作業療法士の関わり	山口由香里	15
	精神科訪問看護における現状と課題	保田 憲吾	23
	介護保険での訪問リハビリテーションの実践報告	藤野 浩	27
	地域活動の中でのお寺の役割「さっとさんがで育む共生社会の構築プロジェクト」	万澤 大輔	33
	訪問リハビリテーションでの看取りの経験から	目良 幸子	37
<b>となりの街の作業療法士</b>			
	当院のボツリヌスリハチームについて	西田 幸司	43
	ライフスタイルの変化から感じた作業療法 ～休職を通じて感じた孤立感から繋がり的重要性～	木寺 真菜	47
<b>書評カフェ</b>	.....	古原 将馬・兼松 大輔・田丸 佳希	52
<b>明日から使える評価方法</b>			
	運転時の自己効力感評価尺度 – Adelaide Driving Self-Efficacy Scale – Japanese Version (ADSES-J) の紹介 –	鍵野 将平	56
<b>研究論文</b>	精神科作業療法における多職種連携の実践度と役割認識、職種間交流の関連 – 共分散構造分析を用いた検討 –	大類 淳矢	61
	回復期病棟に勤務する作業療法士が用いる 作業手段の実態と経験年数による違い	田中 裕二	70
<b>総説</b>	中国における作業療法士養成教育の現況について	宮本 陳敏	78

## 大阪作業療法ジャーナル

第38巻 第1号

巻頭言	藤原 太郎	1
<b>特集：作業療法と訪問リハビリテーション</b>		
対象者から地域全体へアプローチする訪問の作業療法	鎌田 亮平	2
小児の訪問リハビリテーション 家族に寄り添う支援	須郷 尋美	8
精神科訪問看護ステーションにおける 精神障害者と自閉スペクトラム児童への作業療法士の関わり	山口由香里	15
精神科訪問看護における現状と課題	保田 憲吾	23
介護保険での訪問リハビリテーションの実践報告	巖野 浩	27
地域活動の中でのお寺の役割 「さっとさんがで育む共生社会の構築プロジェクト」	万澤 大輔	33
訪問リハビリテーションでの看取りの経験から	目良 幸子	37
<b>となりの街の作業療法士</b>		
当院のボツリヌスリハチームについて	西田 幸司	43
ライフスタイルの変化から感じた作業療法 ～休職を通じて感じた孤立感から繋がり的重要性～	木寺 真菜	47
書評カフェ	古原 将馬・兼松 大輔・田丸 佳希	52
<b>明日から使える評価方法</b>		
運転時の自己効力感評価尺度 —Adelaide Driving Self-Efficacy Scale —Japanese Version (ADSES-J) の紹介—	鍵野 将平	56
<b>研究論文</b>		
精神科作業療法における多職種連携の実践度と 役割認識、職種間交流の関連 —共分散構造分析を用いた検討—	大類 淳矢	61
回復期病棟に勤務する作業療法士が用いる 作業手段の実態と経験年数による違い	田中 裕二	70
総説	宮本 陳敏	78
中国における作業療法士養成教育の現況について		
投稿規定		87
著作権規定		89
執筆要領		91
投稿論文チェックシート		93
編集後記・部員名簿		94

## 巻頭言

## 訪問支援を考える

藤原 太郎

株式会社和ごころ  
和泉リハビリ訪問看護ステーション

近年、超高齢社会に突入し、領域を問わず「入院医療中心から地域生活中心へ」が声高に謳われるようになった。訪問医療をはじめ、地域におけるその人の活動と参加への支援が重要視されている。訪問リハビリテーションに従事する作業療法士も年々増加しており、今号の特集でも小児・精神・身体・老年期・神経難病・緩和領域など、幅広い分野で今後より一層支援・活動の広がりが期待されている。その反面、支援の在り方に悩まれることも多いのではないだろうか。経験や事例を十分に蓄積できていない状況もあり、大阪府作業療法士会においてもデータベースの蓄積・活用と共に、研修機会をより多く持つなど、より注力が必要な分野である。

訪問支援における醍醐味は、その方の暮らしに直面した支援ができることである。私自身、病院勤務から訪問・地域分野に移行し10年以上経過したが「地域で働くこととは」を強く意識させられたO氏を少し紹介する。片麻痺症状をもつO氏に対し、退院を目指して自宅環境を想定し転倒せず安全に暮らせる動作方法を反復、安全な動作レベルに達成したが、退院後は自宅で週に一度転倒を繰り返された。経過を振り返ると、病院でのリハでは自宅環境に応じた動作方法の確認が中心になっており、O氏の病前の習慣や住まい方に応じた具体的なアプローチができていなかった。その後訪問支援にて、自宅でのより詳細な一日の様子を確認し、動きと照らし合わせることで、病院では想像し得なかった転倒の原因が判明し、少しの工夫で転倒は激減した。住宅環境だけでなく、個々のライフスタイルを知ることの重要性を痛感した。

「つながり・発見・作る」。訪問支援におけるチームアプローチは、同地域の医師、看護師、ケアマネジャー、相談支援員、介護事業者などで構成される。対象者ごとに所属や業種が異なる方々との出会いとつながりがあり、新しい知見を得られたり、改めて作業療法士の視点の良さを感じられたりと楽しみの要素が多い。その反面、伝え方・伝わり方の難しさや円滑なコミュニケーションへの不安も交差する。また、各地域(まち)により対象者が利用できる資源が異なるため、その地域資源を調べ発見できる機会や、必要なものをチームで協力し作っていく機会を経験できることで、より作業療法士として人としての視点を広げられる可能性が大いにあると日々感じる。

今回の特集では、様々な領域での訪問の支援内容と地域(まち)資源を活用した活動内容が報告されており、現在訪問に出られている方々はもちろん、今後踏み出してみようと考えられている方にも非常に有意義な内容である。魅力いっぱいの訪問支援に、まちに飛び出してみよう！

## 大阪作業療法ジャーナルに広告を出しませんか



大阪作業療法ジャーナルは年2回(1月と7月)発行しています。大阪の作業療法士が学術的発表や特集などを通じ学ぶ雑誌です。大阪府作業療法士会会員(現在会員数2,500人)や大阪の作業療法学科養成校に配布され、一般にも販売されています。

広告はモノクロで A4 1ページ 3万円、1/2ページが2万円となります。

広告を希望される場合は、大阪府作業療法士会事務局までお願いします。

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-16-8  
玉造井上ビル6階  
TEL : 06-6765-3375  
FAX : 06-6765-3376  
E-mail : jimmu@osaka-ot.jp

大阪作業療法ジャーナル  
第38巻 第1号

---

発行人：藤原 太郎

(一社)大阪府作業療法士会

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-16-8 玉造井上ビル6階

TEL：06-6765-3375 FAX：06-6765-3376

URL：<http://osaka-ot.jp> E-mail：[jimu@osaka-ot.jp](mailto:jimu@osaka-ot.jp)

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

